

夢ノ花は中盤4連敗があったが、上位陣が星を伸ばせない中最後に盛り返して7勝を上げたのが吉と出た形となった。

磯自慢は何と九枚目からのジャンプアップ。一上がるのが早すぎるよ、幕内じゃまだ通用しないって！と不安を口にしていたが表情はニンマリ。意外やこういう形で上がった力士の方が活躍するものである。

かたや、九日目を終えて5勝を上げ勝ち越せば幕内昇進も見えていた桜吹雪。まさかの連敗で負け越しとなり、幕内の座は来場所以降に持ち越しになった。

下位では剣竜が1勝10敗と同部屋の黎ノ城とともに陥落が決定。英吹雪も最後まで調子が上向かず幕下からの出直しとなった。

(勝間田)

幕下は磯ノ海の同部屋決定戦

幕下は同部屋決戦になり茅ヶ崎が優勝を果した。

三日目を終えた時点で4強に残ったのは茅ヶ崎、島内、磯若、千丈岳。この内磯ノ海勢が3人を占め、四日目まずは千丈岳が敗れて脱落、そして茅ヶ崎が島内に、磯若が徳ノ虎



●徳ノ虎に勝って4戦全勝となった。しかし同部屋の千丈岳は全勝対決のためならず、1敗勢と対戦が組まれることになった。2人の結果いかんによっては複数人による決定戦の可能性も残される。



千丈岳●(寄り倒し)○逆起

そして千秋楽は最初に磯若が逆起と対戦。両者譲らない攻め合い展開となり、最後にうまいタイミングで逆起をこじ入れた磯若が逆起を押し倒してまずは全勝を守った。この磯若の優勝が決まると、徳ノ虎が敗れる中、対する相手は樫富士。決定戦に勝ちあがっているのが同じ部屋の力士なら援護射撃で気合も入るところだろうが、何も関係のない樫富士にとってはそれもなく、勝負はあっさりとして左を差した茅ヶ崎が寄り切って両者による決定戦へと突入。

樫富士と同様に、どちらが優勝でも関係のないのが親方をよそに見せての優勝となった。茅ヶ崎は幕下を2場所での通過を決め、十兩の土俵でもいきなり優勝争いというところも十分ありそうな予感だ。

東西筆頭の2人がともに負け越しとなり、十兩昇進者は茅ヶ崎の他、東灘と鹿麒麟の3人となる見込み。

鹿賀乃戸部屋では元幕内の天我が1勝4敗で廃業に。129回場所鹿乃海の四股名で初土俵を踏んで序の口優勝を果たすと、序二段、三段目でも全勝優勝を成し遂げ幕下に駆け上がった。幕下ではやや足踏みしたものの十兩でも苦労したものの146回場所を名乗った幕内昇進を果たした。まだ29歳ともう一花咲かせられる年齢ではあったが、土俵生活に別れを告げることとなった。

そして入れ替わる形で鹿麒麟が十兩昇進を決め、今後の活躍によっては将来的に天我の四股名を名乗るかもしれない、かも。

(山里)



磯若○(押し倒し)●逆起



茅ヶ崎○(寄り切り)●磯若

三段目〜序の口

三段目は四日目、3勝の徳皇と猿飛、虹ヶ谷と他力岳が対戦。春日根部屋は猿飛と他力岳が勝ちを収めた。



虹ヶ谷●(寄り切り)○他力岳

最初に登場した他力岳は徳ノ川に下手投げで敗れ、続く猿飛が赤安に負けると全勝が居なくなり、127回、(現烏帽子岳)と共に千秋楽に敗れて以来の椿事となる。



猿飛○(押し倒し)●赤安

しかし猿飛は赤安を難なく下して全勝を守り優勝を果たした。初の三段目昇進となった秋田部屋の難波山は四日目に難敵勝間田部屋の紅大江を寄り切りで下して嬉しい勝ち越し。千秋楽は逆馬山に苦杯を喫したが、まずは上々の三段目デビューとなった。

序二段も3勝で残った力士4人中2力士が春日根部屋、玉乱と繁元、音柱と小川の割と



玉乱●(寄り切り)○繁元



小川●(上手捻り)○音柱



徳皇●(押し倒し)○猿飛

なった。春日根部屋の玉乱と音柱が勝ち進むと三段目同様、全勝同士の割が組めなくなる。ところがだつたが、繁元と音柱がそれぞれ勝ち、千秋楽は音柱と繁元の全勝対決となった。

結果は音柱が繁元を寄り倒して破り、五戦全勝で序二段優勝を果たし、三段目と合わせ2階級制覇となった。

序の口は新鋭佐戸若部屋の王昇龍が勝ち越し、四日目にも緑波を下し、部屋初の4連勝。



里若●(寄り切り)○桜庭

さらに悲願の初優勝を賭けて、里の若との3勝対決を制した桜庭と



王昇龍●(寄り切り)○桜庭



緑波●(寄り倒し)○王昇龍



音柱○(寄り倒し)●繁元

人事往来

【引退】

美空富士(元横綱) ↓ 姫川

佐戸若親方の期待を受けた背負って立ち向かった王昇龍だったが、桜庭の上手い前捌きの前に廻しが取れずに寄り切りされた。徐々に力を付けている佐戸若部屋の力士達。来場所のさらなる躍進に期待がかかる。

(鹿賀乃戸)